

都構想住民投票=大阪市の破壊を許さない

No. 1
2020年10月3日
大阪を破壊する都構想
に反対する会

コロナ禍の中で税収は大幅に落ち込んでいる。「大阪都構想」で、大阪を四つに分割するための「役所」の増設などの初期費用が241億円必要となり、その後も毎年30億円もの人件費増となる。その費用をどう捻出するのかは深刻な問題である。なのに推進派はそれを隠して進めている。

大阪中央公会堂（9/26）ほか8箇所で開催 大阪維新の一方的な説明会は許されない



中央公会堂の前でビラ配布

9月26日に中央公会堂で「住民説明会」が開かれた。郵便で申し込んだ約300人の市民が参加した。「都構想 NO」の旗を持って、会場前でチラシを配布した。「大阪市を破壊するなんて反対だ！」と元気よくチラシを受け取って参加される人もいたが、チラシには見向きもせずに参加はがきを握って会場に進む人も目立った。なぜか個人確認は行なわれなかった。

公会堂に入場した市民の話では、松井市長と吉村知事が一方的に構想のメリットを2時間も喋ったため、予定の45分の質疑時間が20分に減ってしまった。市が作成したパンフは大阪維新の主張だけが書かれ、反対意見は記載もされず配布もされなかった。質疑では準備されたかのような賛成派の発言が多く指名され、反対意見はほとんど発言できなかった。発言した女性が「これではまるでマルチ商法の説明だ」と批判すると、松井市長は謝らざるを得なかった。

広報関係の市の特別参与からも「広報誌」が「広報というより広告」との批判

22日の朝日新聞によれば、大阪市の広報誌に記載した大阪都構想の説明に対し、専門家の市の特別参与から『広報というより広告』バラ色の表現は避けたほうがいい』との指摘を受け、市が何度か修正した。前回の2015年の住民投票の際には、説明会の資料には都構想の説明だけでなく反対意見も資料として配布された。松井市長はこの間の選挙で都構想は市民の付託を受けているとして、賛成意見だけを資料としているが、都構想の賛否を決定する「住民投票」であるから、行政は市民が判断できるように賛否両方の資料を提供すべきである。

松井市長と吉村知事の、この露骨な対応は、「内容を論議すれば、皆が反対派になってしまう」という松井市長や吉村知事の恐怖心の裏返しであるといえる。

大阪市廃止を許さない
市民大行動
御堂筋パレード
主催 大阪市廃止を許さない市民大行動、御堂筋パレード実行委員会
2020.10.10
午前10時開会、出発
スローガンはただひとつ
都構想反対・大阪市廃止を許さない
集合場所 中之島公園 緑の賛歌像付近（中央図書館南側）
コース 中之島→御堂筋→なんば→難波元町公園（解散）
☆☆☆ お願い ☆☆☆
1. 団体での参加は事前に下記事務局へご連絡ください。
2. 個人参加は当日集合場所でも受け付けます。
3. 可能な限り事前に下記事務局までご連絡をお願いします。
4. 当日は上記スローガンの下での行動です。統一した更新にご協力をお願いします。
5. 軍用機（のぼり、フラカド等）はご参加できません。
6. 団体等の服装または政治的主張、ならびに団体の旗、のぼり等はご遠慮願います。
☆☆☆ コロナ・インフルエンザ感染予防 ☆☆☆
1. マスク等コロナ対策を各自徹底してご参加ください。
2. ソーシャルディスタンスのパレードにご協力をお願いします。
3. 水分補給等、健康に気をつけて、無理をせずご参加ください。
問い合わせ：実行委員会事務局 川島 kawahima3955@yahoo.co.jp 戦川 onaka-ksuryaku@nbc.rftg.zen

大阪市廃止を許さない市民大行進

御堂筋パレードに参加を！

10月10日朝10時から中之島公園から出発

「都構想反対・大阪市廃止を許さない」をただひとつのスローガンとして多くの市民の思いを示す「御堂筋ゆったりパレード」が開かれる。朝10時に中之島公園の図書館南側の「緑の賛歌像」前に集まってからパレードに出発。

松井市長や吉村知事は説明会を前回の5分の1に減らし、し、賛成意見だけを公的資料で配布し、反対意見を発言させず、コロナ禍を悪用して低投票率で通してしまおうとしています。

市民の皆さんに、黙っていたら大阪市がなくなってしまうこと、しかも失敗だとわかって「やり直すこともできない」ことを伝えましょう。市民が内容を読んで自らの考えでぜひ投票をすることをよびかけましょう。

「都構想」は市民の税金をかすめ取り、市民の歴史と文化遺産を破壊する

松井市長や吉村知事は「都構想」の積極的な展望を示すことが出来ないで、「二重行政の打破」を繰り返す。この「二重行政の打破」は、2008年に橋下徹氏が知事になったときに、平松邦夫市長との意見が食い違うことがたびたび起こったため、橋下氏は大阪府市統合本部の会議で「大阪市の金と権限を奪い取る」と公言したという。この橋下氏の怨念が「大阪都構想」の基本にある。

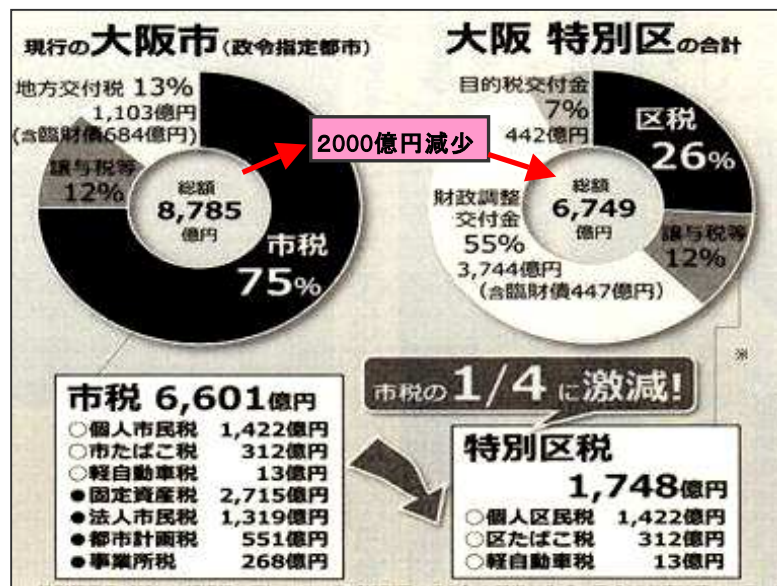
「大阪都構想」で、大阪市を弱小の4つの「特別区」に分割し、税金の75%を取り上げる。そして多くの自治体の権限を剥奪しようとしている。大阪市の守るため、住民投票では「反対」しよう。

大阪市の税金の半分以上が府に吸い上げられる

下図に明らかなように、都構想が決まると現在の「市税」収入の約75%が大阪府に取り上げられてしまう。特別区には府から財政調整金は支給されるが、ひも付きで独自の財源ではないし、赤字の府政の下では不安定である。

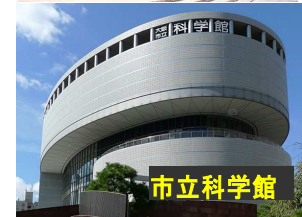
大阪市がバラ色の「大阪都」になるようにいうのはまったくのデマである。東京都では23区の住民が都の人口の約7割を占め、都議会での議員数は約7割で圧倒的多数である。しかし大阪市は大阪府人口の約3割に過ぎず、議員数も26人で府議会の3割程度である。税金や権限と施設は大阪府に取り上げられても、まったくの少数派でそれに見合った発言権は無い。

奪われるのは税金だけでなく、都市計画、港湾、交通・インフラ、産業政策、教育政策、観光・文化・スポーツ振興など市民の未来を設計する自治機



能である。それでは、未来のための自治体設計と発展のための情熱を生み出せない。

* 市民税の内から2000億円は府の財政に組み込まれる。
* その用途は市から剥奪された権能の予算であり、また IR 施設や港湾設備などに使用されると言われている。



(これ以外にも多数の施設)

市民の誇り「大阪城」も「美術館」も府に取り上げられる

大阪市は、難波宮の古代から、四天王寺、大阪城、そして江戸時代の近松・西鶴など文化の町、文楽、歌舞伎、そして商人の町、東洋のマンチェスターといわれた工業都市、そして水の都大阪と言われてきた。

その歴史の中で、大阪人が創り上げてきた文化は世界に誇れるものであり分割することのできない市民の宝物である。

大阪維新の橋下氏は府知事になった時に府の「大阪フィル交響楽団」を民営化し、市長になると市営「大阪市音楽団」の民営化、「文楽」への補助金の削減など、文化と歴史を守るのではなく金儲けと競争原理を基準にしてきた。

「大阪都構想」では博物館や美術館、大型公園等は大阪府の管理に移行することになっている。それは大阪市民の歴史と文化の破壊そのものである。「都構想」は大阪の歴史と文化を市民から奪い、未来を破壊するものである。